

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示しており、共有できている。日々実践につながるよう、努めている。	ホーム理念を玄関に掲示し、案内パンフレットにも表記し利用者や家族に説明がされている。社訓についても毎朝朝礼にて唱和している。開設から11年を迎えケアにマンネリ化がないよう、職員個々の目標、スローガンを掲げ、話し合う機会を多く設け前進するように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所様に行事への参加のお誘いをしたり、ボランティアさんに日常的に読み聞かせや、音楽会等の活動をお願いしている。	自治会費を納め区の一員となっている。読み聞かせ、三味線、ハーモニカ、太鼓等のボランティアが来訪し交流を深めている。中学生の職場体験や高校生のボランティアの受け入れも引き続き行われている。小学校の音楽会、学芸会等の見学にも出向き、楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、民生委員さん、区長さん、市の役員の方に参加していただき、話しをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を参考にし、会議で伝達しサービスの向上に努めている。	家族、区長、民生委員、市高齢支援課職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回行っている。出来るだけ多くの家族に出席頂くために、ホーム行事の敬老会、避難訓練等に合わせて開催するようにしている。利用者の生活の様子をDVDに纏め紹介しながら活動報告などを行い、意見の交換等も行い運営の向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での意見を参考にし、会議で伝達しサービスの向上に努めている。	市高齢支援課とは良好な関係が築かれており様々な相談をしている。近々では防犯カメラの設置について相談をしている。また、市より講師を派遣していただき認知症サポーター養成講座を実施し介護知識の向上を更に図る予定でいる。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームで行い職員が現状を話し、立ち会われる家族もいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニットに身体拘束防止に関するマニュアルがあり、スタッフ全員で共有できている。研修で学んだことは、会議で伝達している。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。拘束を必要としている方ではなく、安全確保のため転倒の危険のある方については家族と相談しベットの鈴を付けている。離設傾向のある方については話をしたりホームの周りを散歩し対応している。全体会議の中で身体拘束の研修を行い理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニットにマニュアルがあり、共有できている。機会が積極的に研修にも参加し、伝達し、虐待防止に努めている。不定期ではあるが、会議等で取り上げ再確認している。		

ツクイ信州中野グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少ないが、研修に参加し、伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の段階で、クレームにつながりそうな部分は説明をした上で、ご家族に不安や疑問点についても伺っている。その時点で上がらなかった時には、今後何かあれば、気軽に尋ねてもらい、その都度説明することを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に要望等、伺っている。内容に合わせて、会議に取り上げながら、改善できるように努めている。	利用者にきめ細かく声掛けをし、表情からも要望を汲み取り、それに沿えるように取り組んでいる。家族の来訪は様々であるが運営推進会議を行事に合わせ開催し、多くの家族に来訪していただけるよう工夫し意見や要望を聞いている。請求書送付時にホーム便りと居室担当職員からの手書きの手紙を同封し、生活の様子をお知らせしている。誕生日には家族も出席し食事とケーキでお祝いしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際に投げかけたり、こちらから積極的に意見を聞く機会を設けている。改善できるように努めている。	全体会議を月1回、ユニット会議を月1～2回実施し、「前進」という年間目標に向かって有意義な会議を行っている。言いたい場所や言い易い環境作りを力を入れている。年1回、各職員の自己目標の提出に合わせ個人面談を行い評価に繋げている。福利厚生として暑気払い、忘・新年会、ボーリング大会、カラオケ等を計画し、チームワークを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人がやりがいを持って、レベルに合わせた役割を持ってもらっている。勤務状態、労働時間も把握し、様子に合わせて話す機会を設けている。会議の場を使って、環境整備や、個々の向上が出来るように伝達している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量に合った研修に積極的に参加できるようにしている。伝達研修や、職員の育成、スキルアップが出来るように、必要時、話し合いもしながら、行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者が参加する研修に出来るだけ多くの職員が参加できるように、順番に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活の背景も参考にしながら、本人の望んでいること、困りごとなど、汲み取れるように努めている。時間を掛けて関係を深めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望、意見、不安を傾聴する事を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要としているのか考え、必要であれば、福祉用具の検討も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	遠慮なく、自宅にいるような環境作りを心がけている。日常の中で、知恵を教わったり、同じ食事を楽しんだり、共有できる所が多くなるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間に制限をつけず、会いたい時に来訪可能と伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常的に使用するものは今まで使用していた馴染みの物を、持ち込んでいただき、自宅の環境に近づけるよう努めている。ご家族に、昔の写真をお願いしたり、面会の際は日常の様子を伝え楽しんで頂ける様に、環境にも配慮している。	近所の方や友人の来訪があり居室でお茶を飲みながら話している。ホームの電話で話される方や携帯電話を使っている方もいる。入居前から利用している美容院に家族と行かれる方や毛糸を買いに馴染みの店に出かける方もいる。職員の手助けで写真入りの年賀状を作り、親しい方に送っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人にあった役割が持てるように、プランに入れている。会話の際は、様子に合わせて、職員が間に入り、円満に交流できるように配慮している。		

ツクイ信州中野グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から連絡があったときには、相談等に応じ、フォローできるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりに担当をつけ、日常の些細な会話からも意向を引き出せるように努めている。職員間や、記録からも情報収集している。困難な方については、職員と話し合う機会を多く設けながら、検討している。	言葉で意思表示の出来る方、そうでない方など様々であるが、利用者一人ひとりに合わせ、また、家族の希望・意向なども聞き、意思の疎通を図りながら取り組んでいる。利用者の思いのままの言動から判断し、介護記録に特記事項として残し、申し送り等で確認し合い支援に役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別ケース記録ファイルに入れて、共有している。ご家族や、ご本人にも伺いながら、生活の経過や背景の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段からどんな潜在的な力があるかを考えながら、関わっている。できる事を活かせる様に、努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフや、時には家族、本人も交えながら、モニタリングや会議を行っている。話し合った内容を、プランに反映させて、計画書を作成している。	職員は2名の利用者を担当している。その担当者と計画作成担当者が中心となりプランの作成を行い全職員でモニタリングを実施し3ヶ月に1回見直しが行われ、家族にも結果が報告されている。利用者の状態に変化があれば即時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	他のスタッフにもわかりやすいように記録し、様子や、変化がわかるようにしている。スタッフ間で共有し、意見を出し合い、日々の実践や、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の要望、買い物等の外出支援を行い、その時の状況に合わせて、臨機応変に対応している。		

ツクイ信州中野グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で助言を頂いたり、近隣のボランティアさんの協力もあり、定期的に演奏会等行っている。状況に合わせて、地域資源も視野に入れ、検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様に相談し、方向性を決めてから、往診医や、かかりつけ医に生活や、薬の相談ができています。	多くの利用者は隣町の病院医師による月2回の往診で対応し、若干名の利用者は市内の総合病院への受診対応となっている。受診の送迎は職員が行い、受診時の付き添いは家族対応としており利用者の状態を専用紙に書き持参していただいている。市内の総合病院からの訪問看護師が週1回来訪し体調管理を行い、24時間のオンコール体制で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ノートを活用し、スタッフ間で情報を共有している。訪問看護師に相談や、アドバイスをもらいながら、対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ面会に行き、本人の様子を伺い、病院の担当者にも話を聞きながら、スムーズに退院が出来るように相談や、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を優先し、ホームのできる事を伝え、方向を決めている。医療機関にも相談しながら、対応している。	ホームとしての重度化の指針があり入居時に話し、書面を取り交わしている。状況の変化に合わせて家族の希望を聞き、主治医の判断を仰ぎ希望に沿った支援に取り組むようにしている。重篤な状況になった時にはその都度カンファレンスを行い職員の気持ちの統一を図るようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が対応できるように、緊急時対応マニュアルを共有している。訪問看護にも連絡を取りながら、対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。避難場所についての相談等、運営推進会議で話し合うようにしている。	年2回避難訓練を行い、そのうち1回は消防署立会いの下、運営推進会議後に実施し、区長、区長経験者、家族などの参加をいただいている。消火器による初期消火訓練も行い、夜間想定では全利用者が防災頭巾を付けて屋外へ避難し、更に「人体人形」を使い2階よりの非常階段を毛布に包んで避難するなどの体験訓練も行っている。地域防災強化の面から尚一層地域との連携強化を進めて行く方針である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには気をつけ、尊重した言葉掛けを行っている。更衣や、排泄の際は、不快な思いをされないように、気をつけている。	グループホームの良さである家庭的な雰囲気を大事にし、親しみの中にも尊厳を考え接するよう心掛けている。呼び方は基本的に苗字に「さん」付けでお呼びし、家族の要望から「愛称」でお呼びすることもある。利用者の尊厳を守るための研修を年1回行い、プライバシーの保護にも取り組み、自由に、また、快適に生活していただけるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が、自分の思いを表せるように、良い関係を作り、話しやすい環境づくりをしている。スタッフが決めないよう、本人の希望が引き出せるように関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課もあるが、その方のペースや、希望、その日の体調にも配慮しながら、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や、髭剃り等、整容に気が配れるように、毎日、関わっている。衣服の乱れがない様にしたり、おしゃれが出来るように関わっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや、餃子やコロッケなど、できる範囲で参加してもらっている。	利用者の身体機能も様々であるが利用者の状況に合わせ、下準備、調理、配膳、下膳等のお手伝いをさせていただき、食事も全員で楽しい食事となっている。食材の買い出しは利用者も同行し近くのスーパーで行っている。誕生日、クリスマス、正月、ひな祭り等には特別食を準備し、外食レクで大型店のフードコートに出掛け楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食べきれる量を提供している。食事のバランスを考え、メニューを作成している。個々にあわせて、食事形態を変えたり、水分摂取量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。個人の状況に合わせて、見守り、介助しながら、行っている。		

ツクイ信州中野グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのタイミングを考え、トイレ誘導を行い、必要な方の見守り、付き添いをしています。排泄チェック表を確認しながら、タイミングをはかっています	自立の方、一部介助の方、全介助の方がそれぞれほぼ三分の一という状況で、殆どの利用者はリハビリパンツを使用している。排泄チェック表を用いたターンを把握し、一人ひとりに合わせ食事の前後やおやつの後、就寝前等、きめ細かな声掛けを行い支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や、食材に考慮しています。運動や、腹圧が掛かるように、言葉掛け、マッサージ等、予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まってはいるが、本人が快く入って頂ける様に、調整もしています。	一部介助の方が半数以上おり、全介助の方と職員二人で介助する方がそれぞれ五分の一ほどという状況で、基本的に週2回の入浴を行っている。衛生管理上、シャワーは毎日行えるようになっている。入浴拒否の方もいるが職員を変えたり、時間を変え対応している。季節に合わせて「ゆず湯」や「菖蒲湯」、「リンゴ湯」等、楽しい入浴を演出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れや本人の希望に合わせてながら、休息の時間を作っています。午睡もしていただきながら、無理なく過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬科情報をいれ、いつでも確認できるようにし、スタッフが共有して、把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や、好きな事が楽しんでもらえるように考えている。長年過ごしてきた馴染みの生活を取り入れながら、支援が出来るように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や、散歩などにも出かけます。外食や、季節ごとの外出行事も企画し、行っています。	外出時、自力歩行の方がほぼ三分の一、歩行器の方が数名、車イスの方が半数以上という状況である。天気の良い日にはホームの周りを散歩し、ホームの畑で野菜の収穫を楽しんでいる。また、月1回の外出行事を大切に、食事、花見、バラ公園等に出掛けている。更に、上越水族館への日帰りバス旅行も引き続き行い好評であるという。夏祭りには家族も来訪し、スイカ割り、花火、焼きそば等を楽しんでいる。	

ツクイ信州中野グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が現金を使用する機会はない。立替を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、はがきを用意したり、電話が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温に気をつけ、日差しが強い時にはカーテンで、調節している。季節感を考え、飾りつけをしています。	共用部分の空調は床暖房とエアコンの併用で快適に生活をしている。壁には利用者の手による数多くの作品が飾られ、中には手の混んだリンゴの木や手作りカレンダー、また、各利用者の写真入りの紹介カードが貼られ、日々の様子のスナップ写真とともに楽しく過ごしていることを窺うことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	楽しく会話ができるように、席に配慮したり、職員が間に入って、会話ができるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなじみのものを持ってきていただき、使用している。	毎日、利用者と職員と一緒に掃除を行い清潔な居室となっている。思い思いに自分の使い慣れた物が持ち込まれ、また、家族の写真、職員より送られた誕生日祝いのメッセージ色紙等も飾られ、安心して生活していることが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りが付いており、安全に歩行や、立ち上がりができるようになっている。 表札や、トイレの位置がわかりやすいように、工夫している。		